

様式2	令和2年度 清瀬市立清瀬第六小学校	学校評価表
<b>学校教育目標</b>	○よく考えずんで行動する子供 ○仲良く力を合わせる子供 ○健康で心豊かな子供	<b>育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動</b>
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>	【目指す学校像】 自己肯定感を高めさせ、次代を担う子供を育てている学校 【目指す児童像】 自分を見つめ、自分を肯定的に考えることのできる子供 【目指す教師像】 常に子供を主語に置いて、指導を行う教師	○「人権尊重の精神」を基調とした思考・判断・実践する教育 ○学びを追究し知的欲求が旺盛な教育 ○体力を分析的にとらえた体力向上の教育 ○将来にわたって地域に貢献する教育
<b>前年度までの学校経営上の成果と課題</b>	○特別支援について、教員が意識を向けるようになってきた。 ●教員一人一人の教育理念に基づく授業改善がされず、細かな指導方法の改善にとどまってしまっている。	
<b>「自他のよさ」に気付き、人格を大切にできる教育</b>	・社会に存在する差別に気付き、許さず、解消しようとする教育 ・児童自らの思考を認識させる教育 ・体力を身体的・精神的、行動・防衛に分類し系統的に行う教育 ・地域の人々と積極的に関わる教育	

柱	具体的方策	自己評価		課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	次年度以降の改善方策
		評価	取組特徴 成果指標			
確かな学力の向上	特別支援教育の視点を取り入れ、指導方法改善加配教員も含めた体制で、児童一人一人の課題に応じた授業改善を行い実施する。	3	2	「特別支援教育の視点」を取り入れた児童一人一人の課題に応じた指導を心掛けるようにして、授業展開をするように、観察授業を通して指導してきた。多くの授業で、一人一人の凸凹に応じた指導を心掛けている。児童の課題が多様化する中、全ての学習内容の定着が図られているわけではない。	特別支援教育の視点は、どの子供にも一人一人のニーズに応じていくとする点でよい。 担任に負担がかからないように配慮がひつよ	特別支援教育は、特別支援教室に在籍する児童にだけ当てはまる考えではなく、どの子供に対しても必要であることを担任に負担のかからないよう、コーディネーターが中心になり、保護者・地域にも理解啓発を図っていく。
	既習の学習内容を確認した上で新たな内容の指導を行うとともに、家庭に働きかけ、家庭学習の充実も図る。	2	2	児童一人一人の特性、特によい部分に目を向け家庭でもよさを認めながら子供が自信をもって成長できるように「学校だより」等で促してきた。しかし、家庭学習の重要性や具体的な有用性について啓発し、理解を浸透するまでにはいたらなかった。	「学校だより」は充実していて、先生の児童に向ける真摯な姿勢を窺うことができ、参考になった。家庭学習を児童に即した量にすることで、家庭の理解を得やすい。	コロナ感染症流行が不透明な中、家庭・地域と連携がより一層図れるよう、学校の様子の他地域の行事等についても取り入れるように検討していく。 個々の児童に即した家庭学習についても配慮を図っていく。
豊かな心の育成	成功体験を多く意識させる中で、児童が自己の特性に気付き、それを活かそうとすることができる教育活動を展開する。	4	3	年間を通して、校長の月曜講話で児童に自身の特性に目を向けるとともに、子供同士がお互いに発見した特性について伝え合うことによることに繋がることについて触れてきた。多くの児童が、自分の特性について考えることができた。	児童間の繋がりが、お互いに認め合うことに着目した指導は素晴らしい。成功体験は、行事の他に奉仕活動といった誰かの役にたつ体験も取り入れたらどうか。	今後も、児童自身が自分の個性に気付く指導を継続するとともに、児童間での認め合いについても家庭・地域と連携していきながら一層推し進めていく。中学校の取組を参考にしながら、六小でできる奉仕活動について検討していく。
	多くの人と関わりの中で、お互いに見守られ、見守る中で大切にされ生活をしていることが実感できる活動を展開する。	3	2	コロナ禍の状況もあり、「昔あそびの伝承」等地域の方々と関わる機会を設けることができず、見守られていることを強く実感できる児童は限られてしまった。6年生は「おやじの会」主催の「サマーキャンプ」を通して実感することができた。	今年は地域の大人と触れ合う機会が少なかったと思うが、たくさん先生をはじめ、多くの大人がいて学校生活ができているという話もよい。行政などに守られているから生活	低・中学年では、高齢者との触れ合いの中で、昔遊びの伝承や体験に基づいた地域の歴史について学びとらせていく。高学年では、社会科や総合的な学習の時間などで、行政の役割の学習などを含め多くの人に支えられていることを学ぶ学習を展開
健やかな体の育成	東京都統一体力テスト結果を分析するとともに、体育部を中心とした教員による模範授業を行い改善した授業を展開する。	2	2	東京都統一体力テストが中止となってしまったため、実施可能な調査年・項目となってしまったため、実施できなかった項目については、昨年度の結果を参考にした。体育の授業も制限があったため、運動発表会に向けた模範授業にとどまった。	放課後の遊び方も変わってきている中で、体育の重要性は感じる場所である。体育発表会での子供たちの姿には感動した。体育を通して何を学ばせるかが大事ではないか。	教員間で体育のねらいについて、学習指導要領を基に改めて腰痛理解を図っていく。体育発表会や運動会では、事前に発表種目の内容や身に付けさせたい体育的な要素について、保護者・地域に伝えていく。
	栄養士による食育の視点から健康を考えさせる学習を展開するとともに、生活点検カード等により、常に自らをふりかえらせる。	3	3	地元農家生産のトウモロコシの皮むきや給食での伊豆諸島産の魚使用など、栄養士による指導を行ってきた。行動体力のみならず、コロナ禍のこともあり日常生活習慣を防衛体力と栄養からも考えようとする児童が増加した。	栄養と健康の繋がりを意識できたのがよかったのではないかと。コロナ禍ということもあり、食育も栄養指導も病気と闘う手段としてとらえさせている。食の体験が楽しいものだとよ	食の楽しさをより一層体感させるために、ただ単に「好き嫌いをなく食べ増しよう」「残さずに食べよう」の指導ではなく、最近の食育に関する情報を集め、発達段階に応じた栄養素も意識した食に楽しさを感じられる指導を計画的に実施していく。
特別支援教育の充実	全教科・領域を通して、自然の摂理・偉人の生き方について取り上げ、個性を生かした生き方を考えさせる。	2	3	校内研究で特別支援教育の手法を取り入れたことにより、児童に個性を見つめさせる教育活動は展開できたが、自然の摂理・偉人の生き方まで踏み込んだ授業展開は7割の教員にとどまった。	自然の摂理が温かいものとして捉えられる指導をして欲しい。偉人は己を知って志があったからこそ偉業だと思う。一人一人が己を知ること大事。それを卑下しない視	自分を知り、自分の可能性を信じられるように、キャリア教育も含め、継続的に指導を行っていく。特に特別な教科道徳の他、学校図書館の活用の中で偉人に触れ、高学年では自らのモデルとなる偉人を探するなど具体的な活動を展開していく。
	教員一人一人が、発達や障がいについて理解し、その上で児童一人一人の特性に応じた指導を行う。	4	3	特別支援学級の担任や外部講師による具体的な事例をとおした研修会により、教員の障がい特に発達障害に対する認識が高まり、授業改善を図ることができた。多くの児童が程度の差はあるものの、自己の課題解決を図ることができた。	障害の有無に関わらず、子供一人一人の成長という視点で日々子供を見つめ、子供と接することができたのがとてもよい。今後も児童一人一人の発達に目を向けていく必要が	「障がい」に対する考え方を全教職員で整理し、本校の考える特別支援教育と障がいとの関連を明確にしていく。また、保護者・地域に対して整理したことを発信し、共同して子供に対することにより、より一層自己肯定感の高い児童を育成する。
本校の特色	発達段階に応じて、地域や本校の自然物や人物について関連した課題を設定し、理解を深めさせる。	4	3	コロナ禍で全生園の見学中止等があったものの、郷土資料館の活用や地域巡り等を行うとともに、全学級で澄川氏を取り上げた授業を行った。発達段階に応じて、多くの児童が「ふるさと清瀬」を意識できた。	自分が住んでいる社会(地域)の特徴を知ることができていることはとてもよい。反面、他地域から来る先生が「ふるさと清瀬」というのは大変ではないか。	「次代の清瀬を担う人材を育成する」の考えを継続し、周年行事とも連携しながら、特に本校が立地する地域の歴史に目を向け、先人の苦労や喜びも含めた事柄を理解させる。他地区からの教員には、自分が生まれ育った地域を知ることから
	本校や地域社会・伝統行事等を文えている人々に目を向け、生活科や道徳の時間を中心に将来地域社会に生きる一員としての自覚を高めさせる。	4	3	発達段階に応じて、自分の夢・理想の社会像を意識させる授業を全学級で実施した。また「コロナ禍での避難所」体験や、阪神淡路大震災を取り上げた授業を展開し、災害時に地域の中でできることなどを考えることで地域の一員としての意識が高まった。	子供にとって、子供時代に過ごした所、父母が住んでいる所として愛着をもたせることが大事	六小プロジェクトX(学校地域支援本部)と連携しながら「サバイバルキャンプ」「土曜講座」を継続するとともに、保護者が持つ専門性にも目を向け、授業に積極的に支援を仰ぐ。その窓口としても六小プロジェクトXに支援を依頼していく。